

# 地方民鉄紀行

文・写真

松澤美穂

街全体が歴史の教科書

知るべきこと

見るべきものが

そこかしこに点在する

学び、楽しみ、疲れたら

電車に乗って一休み

## 長崎電気軌道株式会社



## 右

手を上に左手を水平に差し伸べた平和記念像を前に、見てきたばかりの長崎原爆資料館の数々の資料を思い出す。

### 長崎は平和を願う

長崎電気軌道・長崎駅前から赤迫行き電車に乗って7つ目の電停・原爆資料館。長崎に来たのなら、訪ねないわけにはいかない場所。修学旅行や社会科見学などの利用が絶えない施設だが、この日この時、数えるほどしか見学者がいなかった。しんと静まった展示室で、ガイダンス音声に耳を傾け、ゆっくりと資料を見て回った。

静かな原爆資料館を出ると、日常のざわめきが戻ってくる。なんとも言い難い気持ちのまま、隣接する原爆落下中心地を眺め、平和記念像のある平和公園「願いのゾーン」までやって来た。

広々と開けた空間、おなじみの平和記念像以外にも、平和を象徴するモニュメントや噴水もある、美しく整備された一角。小高い丘の上にある願いのゾーンから周囲の街並みを見渡すと、浦上天主堂もよく見える。

被爆前と同じ赤茶色のレンガの塙と二つの塔を持つ堂々とした天主堂に、片方の塔が吹き飛ばされ、ポロポロに崩れた塙がわずかに残された、無残な天主堂の姿が重なる。穏やかで平和そのものといった街並みを眺めているのに、原爆資料館で見た、一面焼け野原になったモノクロの光景が思い浮かんでしまう。思いがけず泣きそうになりながら、眺めの良いきれいな公園を後にする。

## 出島は陸地!?

平和公園電停から崇福寺行き電車に乗る。車内は平日の昼間にしてはまずまずの賑わい、と思っていたら、次の

原爆資料館電停で、中高生の集団がどっと乗車してきて、ぎゅうぎゅう詰めに。修学旅行の自由行動中か、5、6人ずつグループになって、楽しそうにざわめいている。

観光マップに頭を寄せて、何やら相談中の生徒たちの間をすり抜けて下車したのは、電停・出島。そう、あの扇形をした外国人居留地、江戸時代に造られた人工島の「出島」がすぐ目の前にある。

明治時代には出島は埋め立てられて島ではなくなっていたというのを知ったのは、恥ずかしながら大学生の頃。結構、驚いたのだが、戦後、島の形を復元させる整備計画が起こり、計画は現在進行形で続いている。現状、正面には川が引かれ、橋を渡って出島に出入りするようになっていたが、他の3辺はまだ地続き。正面から見て右側と裏側を通る道路は、長崎電気軌道も走っている。

橋を渡って、いよいよ出島へ入場。鎖国時代の日本における貿易の拠点、西欧への窓口・出島は……狭い！ 外から見ていて、薄々気づいてはいたけれど、中に入って歩いてみると、本当に狭い。あつという間にぐるりと一周できてしまう。資料によれば、出島の広さは約1万5000㎡、一番短い東西の長さは約70m、一番長い辺でも233mしかない。



## 長崎電気軌道

【ながさきでんききどう】

長崎市内に4系統の路線を有する路面電車。5分から9分の間隔で運行。通勤通学はもちろん、観光客の移動手段としても親しまれている。

原爆落下中心地の横に設置された被爆後に残った浦上天主堂の塔の一部。



平和公園「願いのゾーン」から見える浦上天主堂。



ガイドブックでおなじみのオランダ坂(右)とスキーができそうなほど急なもう一つのオランダ坂(左)。



出島の真横を路面電車が走っている。



出島には橋を渡って入る。想像よりもずっと狭い。

しばらく歩くと、目の前にとんでもなく急な下り坂が出現。もし自転車に乗ったままなら危なくて下れそうもないし、電動自転車であっても上るのは大変そうなくらいの斜度。雨に濡れた石畳は、いかにも滑りやすそう

で、慎重にゆっくり下る。坂の途中には「オランダ坂」の石碑。風情を楽しむどころじゃ

一息で駆け抜けられるこの小さな島には、当時、多くの日本人が入り込んでいたというが、居留していたオランダ人商館員たちの外出はままならなかったというから、さぞかし窮屈だったことだろう。ほとんどの商館長や商館医の任期が1年程度だったのは、この窮屈さのせいもあったかもしれない。

### オランダ坂はこんな坂

居留者たちがなかなか渡れなかった橋を渡って出島を出る。

### 長崎土産の定番は…

なかつたこちらの坂も、オランダ坂と呼ばれる坂だっただけ。坂を下りきって大きな通りに出ると、すぐそこに石橋電停が。ちょうど電車も来ている。下り坂に疲れたことを言い訳に、大浦天主堂まで1駅乗車。

大浦天主堂は、電停からホテルやお土産物屋の並ぶ坂道を上り、入場口からさらに急な階段を上った先にある。

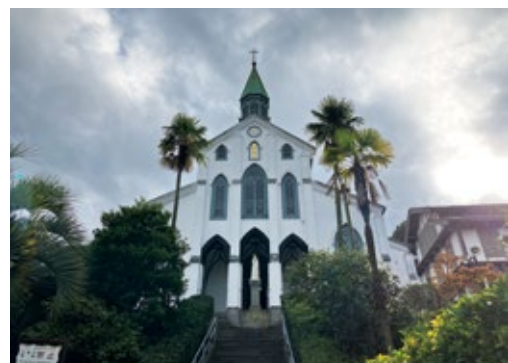
上り坂続きに上がった息を整え、扉を開く。高い天井に薄暗い室内をステンドグラス越しの光が照らす。キリシタン禁制の時代を耐え抜いた日本の信者再発見を見守ったマリ

日本におけるキリスト教の歴史や大浦天主堂の由来など関連資料を展示した、天主堂隣接の博物館も見学してから電停に戻る。次の行き先候補は、大浦天主堂のパンフレットが見学を勧めている日本二十六聖人記念館か、長崎くんちで知られる諏訪神社。前者は「西坂の丘」の上であり、後者は「長い階段」が有名。どちらに行っても、坂の洗礼を受けること確実。

どうしたものかと迷っていると、今日一日、そこそこ見かけていた修学旅行の集団が小走りにやって来た。手には、お土産らしい紙袋やビニール袋。中にはどれも似たような長方形の細長い箱。その定番を忘れていた。何はともあれ、ひとまずどこかでカステラ食べよう。



こちらでもかなり急な階段があった日本二十六聖人記念碑(上)と間きしに勝る階段だった諏訪神社(左)。



大浦天主堂は急な階段の上にある。